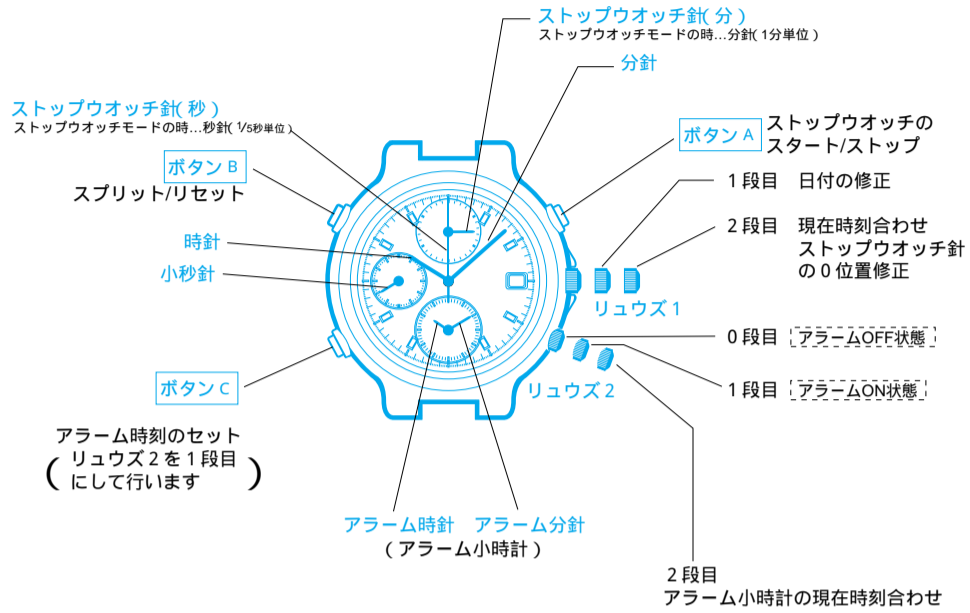


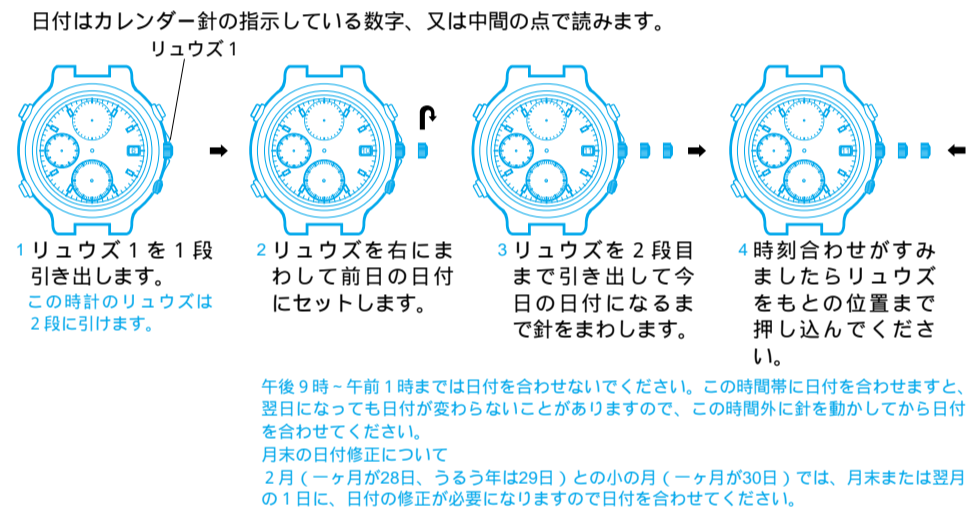
Y182の主な特徴

Y182は、多軸表示によるストップウォッチ機能、アラーム機能をもったアナログ時計です。現在時刻を、時計、分針、小秒針で表示します。ストップウォッチは1/5秒単位で30分まで計測します。セットした時刻になると、アラーム音で知らせる12時間制アラーム機能つきです。電池の寿命が終りに近づくと、秒針が2秒間隔で動いて知らせてくれます。カレンダーつきです。

各部の名称とはたらき



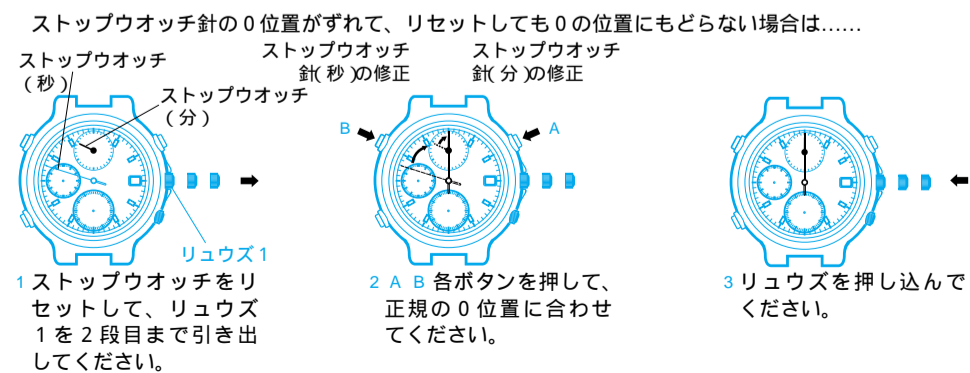
カレンダー針の合わせかた



時刻の合わせかた



ストップウォッチ針の0位置修正



製品仕様

- 水晶振動数 32,768Hz (Hz = 1秒間の振動数)
- 携帯精度 常温(5 ~ 35)において月差±20秒以内(アラーム目安精度±1分)
- 作動温度範囲 -5 ~ +50
- 駆動方式 ステップモーター式(4個)
- 表示内容 時刻表示 時、分、秒(1秒ステップ運針) ストップウォッチ(1/5秒計測、30分計) 分針(1分ステップ運針、30分/1回転) 秒針(1/5秒ステップ運針、60秒/1回転)
- 使用電池 小型銀電池 SB-BP 1個
- 電池寿命切れ予告機能つき
- 電子回路 C-MOS-LSI 1個

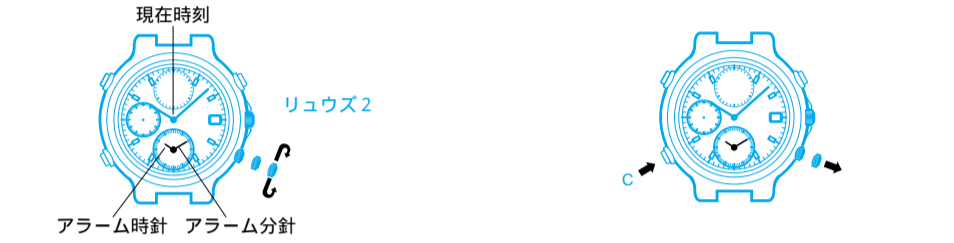
上記の製品仕様は改良のため予告なく、変更することがあります。

アラームの使いかた

1分単位でアラーム時刻がセットできます。(ただし午前、午後の区別はありません)

アラーム小時計は別時計です。アラームを使用する前にアラーム小時計の現在時刻合わせをします。

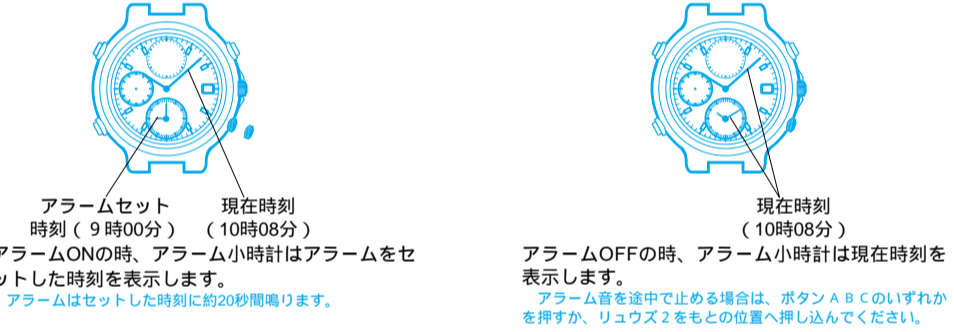
この操作は、1回行えば現在時刻を修正するとき以外には必要ありません。



リュウズ2を2段目まで引き出して、リュウズをまわして、アラーム小時計を現在時刻に合わせます。合わせ終わったら、リュウズをもとの位置まで押し込んでください。

リュウズ2を2段引き出すと、約1秒間警告音が鳴ります。警告音が鳴り終わると、あらかじめセットしてあったアラーム時刻はキャンセルされます。(ただし、鳴っている最中にリュウズをもどせばキャンセルされません。)

このとき、ボタンCを押して、アラームを鳴らしたい時刻にセットします。ボタンCを1回押すと1分ずつ進み、押し続けることで早送りできます。



6時位置の小時計をデュアルタイム表示として使う場合

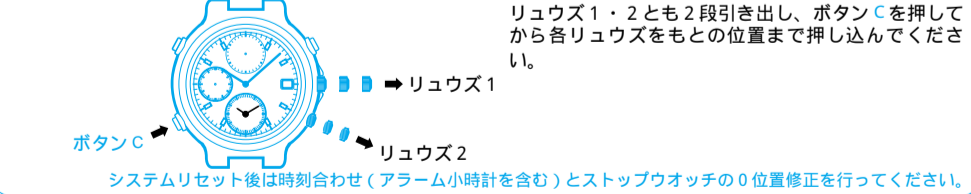
この時計の6時位置の小時計を使って、デュアルタイム表示させることができます。

通常アラーム機能に使っている小時計を、この機能に使ってしまいますので、合わせてあるアラーム時刻等は、キャンセルされます。アラーム機能として使用する際には、もう一度、アラーム針の現時刻を合わせてから、行って下さい。

リュウズ2を2段目に引き出してください。約1秒間警告音がなります。リュウズ2を回転し、合わせたい地域の時刻に合わせてください。12時間制ですので、午前午後は読み取れません。合わせ終わったら、リュウズ2を押し込んでください。この状態から、リュウズ2を1段目に引き出し、アラーム時刻をセットした場合、合わせた地域の時刻が一致した時にアラームがなります。

システムリセットについて

万一、針が通常動作と異なる動きをした場合、以下のような操作を行なってください。時計体内部のシステムがリセットされ、正常に機能するようになります。



「ルミブライト」について

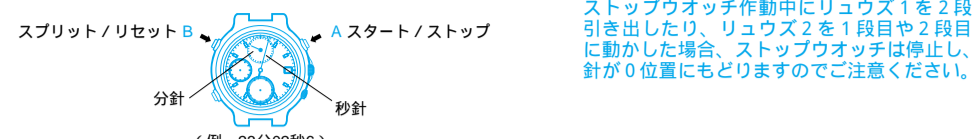
「ルミブライトは、放射能等の有害物質を全く含まない環境・人に安全な蓄光(蓄えた光を放出する)物質です。」ルミブライトは太陽光や照明器具の明かりを短時間(約10分間:500ルクス以上)で吸収して蓄え、暗い中で長時間(約3~5時間)光を放つ夜光です。なお、蓄えた光を発光させているので、輝度(明るさ)は時間が経つに従ってだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際のまわりの明るさや時計との距離、光の吸収度合により、光を放つ時間には多少の誤差が生ずることがあります。

- 照度データ(目安値)
 A.太陽光 晴天 100,000ルクス 曇天 10,000ルクス
 B.屋内(昼間窓際) 晴天 1,000ルクス以上 [曇天 1,000~3,000ルクス 雨天 1,000ルクス以下
 C.照明(白色蛍光灯40Wの下で) 1m 1,000ルクス [3m 100ルクス 通常室内レベル] 4m 250ルクス

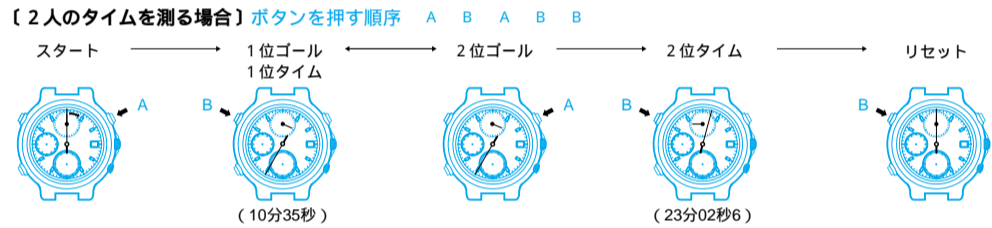
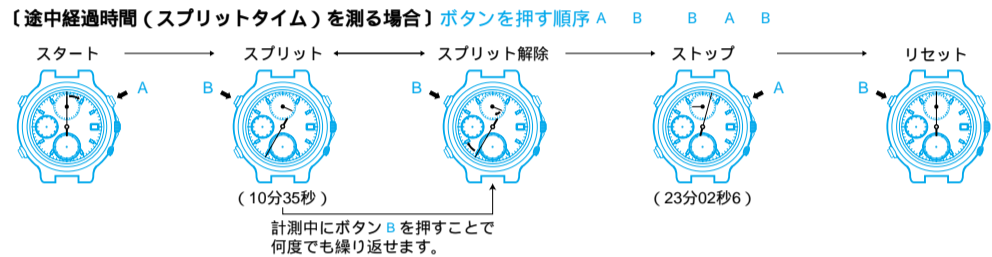
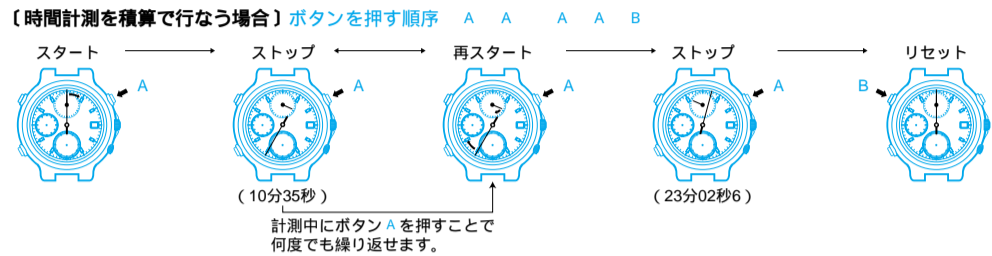
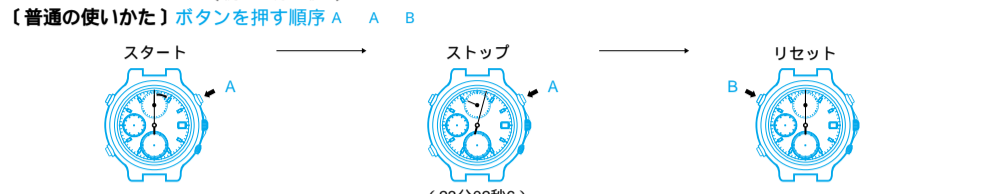
ストップウォッチの使いかた

1/5秒単位で最大30分まで計測可能です。針が0位置に合っているか確認してください。ストップするのを忘れた時は、ストップウォッチが作動してから6時間後に自動的にストップします。

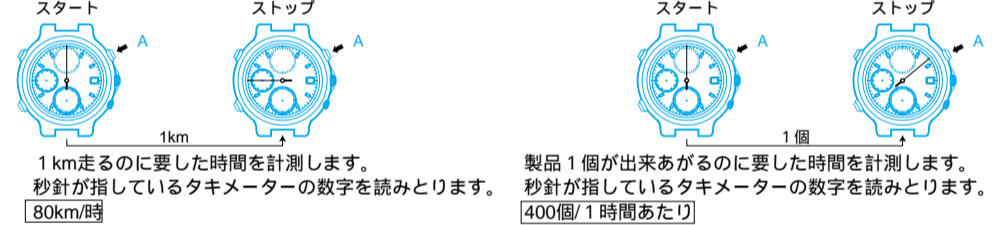
【ストップウォッチの読みかた】



ストップウォッチ作動中にリュウズ1を2段引き出したり、リュウズ2を1段目や2段目に動かした場合、ストップウォッチは停止し、針が0位置にもどりまのでご注意ください。

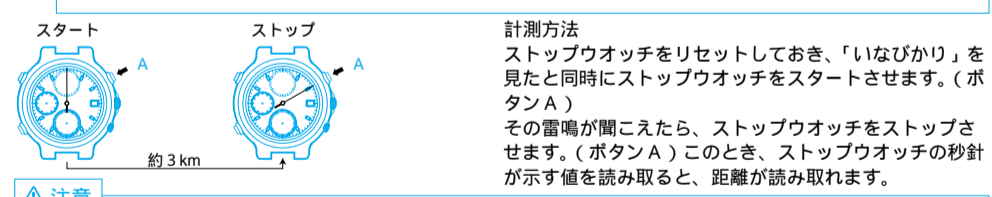


=タキメーター(TACHYMETER)がついている場合= 単位時間あたりの時速や出来高などが簡単に測定できます。時速を測定する場合、1時間あたりの出来高を求める場合



=テレメーター(Telemeter)がついている場合= 音の発生場所までの、目安の距離を算出する事が出来ます。テレメーターとは、
 ・「いなびかり」を見てから、その「雷鳴」が聞こえるまでの時間を測定することで、雷の発生場所からの距離を推測することができます。
 ・光(いなびかり)は、ほぼ瞬時に届き、音(雷鳴)は約0.33km/秒の速さで聞こえることを利用して、発生場所からの距離を算出します。
 ・1kmを3秒かかるとして、目盛りを用意してあります。

あくまでも目安の距離を算出するもので、雷からの危険を避けるための行動判断には、使用できません。また、音の速度は伝わる空間の温度によって変わります。



秒針は1/5秒ステップで運針するため、テレメーターの目盛りとは合いませんのでご注意ください。また、計測は1分以下でのみ有効です。